

まったく怪しげな哲学入門

学力研 先生のための学校 校長 久保 齋

みなさんお元気ですか。私はこの間、落ち込んでいました。パソコンが壊れて、今までの、「学力研の広場」の原稿も、本の原稿も、それに諸々書き留めた原稿がすべてパーになってしまったのです。この十年間の原稿がすべてパーです。パソコン屋さんに頼んでも残念ですがの返事しか返ってきません。バックアップを取って置けばの思っただけが残ります。

でもここであげないのがクボのクボたる所以です。原稿は失われても、僕の脳には思想が残っている。それを学力研のみんなに、新しい仲間に語ることができはるはずだ。思想さえあれば「語り」も「原稿」も湯水のごとくその場その場の雰囲気にあわせて溢れでること間違いのないのです。ビゴツキーがそう言っているのですから間違いのないです。

新しい学校を二つ創ろう

この間、私は長い沈黙（これは嘘）を破って新たなギラギラする野蛮な熱情に駆られています。それは十月八日に行われた、菊池道場とのグラウンドクロスの講演中に、突然降ってきたのです。

『そうだ。新しい学校を名古屋に創ろう』
菊池道場しか知らない若い先生に語っているとメラメラとした熱情が沸き上がってきたのです。そうだ。この先生方に学力の実践を余すところなく伝えねばと……。
名古屋の若い先生は学力研の実践をもっともっと聞きたがっている。菊池道場だけでは満たせないものを学力研はうんと持っている……。これが僕の思いで、もう思い込むと止められないのが僕の性分です。早速、愛知の羽根先生と山口先生にはその

場で、その思いを熱く伝えました。

「先生のための学校」を始めて十年が経ちました。学力研のみんなで作ってあげてきたこの「先生のための学校」は類まれな学校なのです。『先生の、先生による、先生のための学校』……これが私たち学力研が教育界に新たな指針をしめし、十年間の実績を上げてきた類まれな学校なのです。

名古屋に新しい学校を創ろう

私は、学力研はそれぞれの先生の夢を表現させるための組織だと思っています。だからが夢を語り、それが集団に受け入れられたとき、その夢は個人の夢から学力研の夢へと発展し、みんなの力で実現していくのです。もちろんそのためには、夢を語り、夢を訴え、共感を広げ賛同を得、実現へのプロセスを経なければなりません。ここにはいつも「時の流れと自然淘汰」という法則が成り立っています。僕の夢が実現するには、名古屋地域の先生方の要求と、学力研の意思が必要なことは言うに及びませんが、それでも僕は夢を語りたいのです。名古屋に先生のための学校が実現しますように……。

若い先生のための学校を創ろう

さて、もう一つの学校は、もう実現のために始動しています。それは『若い先生のための学校』です。

3月から6月までの四回にわたって、

『若い先生の、若い先生による、若い先生のための学校』の創立です。もちろん、生徒は自称若い先生、講師は自称十年から十五年くらいの先生で構成する、生徒も先生のフレッシュな学校です。

私はこのプログラムを見たとき、わくわくしました。一コマ三十分の講座内容は、若い先生の要求そのものなのです。それが延べ、二十五講座もあるのです。

「子どもの心をつかむ楽しいゲーム」

「こうすればうまくいく給食、清掃指導」

「初めての参観に向けて」

「新出漢字のすすめかた」

「行事にのみこまれない学級指導」

「懇談会・家庭訪問はこう乗り切る」

「困っている子どもにどう対応する」

こんな講座が目白押しです。新しい学力研の夜明けになること請け合いです。そして9月からはディープな「元祖、先生のた

めの学校」の開講です。

夢を持ち寄ればなんでも実現できる。これが学力研だということを示し、みんなで力を合わせて実現していきましょう。

私は「先生のための学校」を開講して三年目、『白い本』の見開きに次のような設立宣言を書き、世の人々にその意義をとつていきます。参考までに

「先生のための学校」設立宣言！！

この学校は、現役の学力研の教師が講師を務める講座と、その講座を踏まえて、受講生である若手教師が自分の教室で追実践をした映像を見ながら、みんなで実践を深める取り組みから成り立っています。今現在三期目を行っていますが、学力研の講師も映像で自分の実践を見せながらの講演で、より具体的な内容になってきています。また、朝の会、帰りの会などの実技や模擬授業も魅力です。そして、名物は放課後の取り組み。それぞれの講師を囲んでのダベリングやソフトドリンクでの一杯飲み会などを楽しくやっています。

私はこのような取り組みが教師の力量を高め、日本の教育に寄与する大切な素晴ら

しい取り組みだと考えています。そして、このような取り組みが日本の津々浦々にまで広がり、すべての教師がその恩恵を享受できんことを祈念します。

私はここに庶民のための教育改革をめざし、「先生のための学校」の設立を宣言します。喫茶店の片隅で実践を二人でとことん語ること、実践の映像を片手に三人、五人と集う研究会、本を読み、その実践の意味を深く追求する読書会……。校舎こそないですが、これが私の求める「先生のための学校」です。そこには権力も権威もない、ただ“どの子も伸ばす”という強い意思と「あなたのクラスの子はキラキラ輝いているか」というシビアな評価、そして、仲間を気遣い、仲間と共に伸びようとする熱い心がある。そんな学校を私は望んでいるのです。

この「先生のための学校」が野火のごとく広がり、瑣末なもの、がさつなものを焼き尽くし、どの子も伸ばすためには何を恐れないう気概と野蛮な意思をもって、若い先生が自ら燃え上がるならば、日本の未来は明るいと確信します。